
■ 「分かりやすい誘導案内を実現する、 駐車場サインリニューアル」 について

府中駅南口市営駐車場の場内サイン改修事例

モビリス・コンサルティング株式会社
代表取締役 木村 直子

1. 府中駅南口の再開発と駐車場の整備

(1) はじめに

東京都府中市は、武蔵国の国府が置かれた地であることに地名が由来する歴史ある土地で、大國魂神社と参道で国指定天然記念物のけやき並木通りがある駅前には緑豊かな環境である。再開発ビルやバスターミナルが整備されている現在では想像が付きにくいですが、再開発前の府中駅周辺は商店や木造家屋が立ち並び、狭い道路しかない密集地帯のため、防災上の観点から危惧されていた。

このような背景から駅南口から旧甲州街道までの木造低層商業地区に関する防災のための再開発事業を目的として、1976年から1982年にかけて再開発準備組合が設立され、1982年12月に府中駅南口地区市街地再開発事業として3つの地区の都市計画決定がなされた。大型複合商業施設の建設と駐車場整備が計画の中心であった。

1993年12月に第2地区再開発ビルの工事が着工、1996年3月に「伊勢丹（現ミッテン）・フォーリス」が竣工し、地下部分に府中駅南口市営駐車場(425台)を設置するとともに、周辺の道路整備が図られた。また、2017年7月に第1地区の「ル・シーニュ・プラウド府中ステーションアリーナ」が竣工し、約35年をかけた再開発事業が完了した。尚、同年完成したル・シーニュ地下駐車場は府中市が購入し、隣接する府中駅南口市営駐車場と繋げて一体管理(合計が788台に)することとなった。

(2) 「府中駅南口市営駐車場」について

1995年11月に府中市・日本ガレーヂサービス株式会社の共同出資により「株式会社府中駐車場管理公社」が設立され、1996年4月、第2地区の再開発事業の完成にあわせて設置された「府中駅南口市営駐車場」の営業が開始された。

■施設概要

施設概要			
所在地	東京都府中市宮町1丁目41番地 (府中駅南口にあるフォレストサイドビル及びブル・シーニュ地下)		
駐車場形態	地下自走式、出入口及び場内に駐車場係員配置		
営業時間	駐車時間 24時間(年中無休) 入庫時間 8時00分～23時30分 (ミッテン・フォーリス側入口は22時まで) 出庫時間 8時00分～24時00分 (ミッテン・フォーリス側出口は23時まで)		
収容台数	788台		
	ミッテン・フォーリスエリア	地下2階～地下3階	308台
	ル・シーニュエリア	地下2階～地下3階	128台
	駅前通りエリア	地下1階～地下3階	111台
	駅前広場エリア	地下1階～地下3階	241台
駐車可能な車両	一般車、搬入車		
駐車場出入口	自動車用入口 2ヶ所 (ル・シーニュ側入口、ミッテン・フォーリス側入口) 自動車用出口 3ヶ所 (神社前出口、ル・シーニュ側出口、駅前通り出口)		
年間利用台数	令和5年度実績 779,460台 (一般車、搬入車合計)		
ホームページ	http://www.fuchu-public-parking.co.jp		

2. サイン改修前の課題

(1) 駐車場利用者からの声

地域最大の駅前公共駐車場である「府中駅南口市営駐車場」は、各再開発ビルの地下駐車場で構成され、「府中駅南口市営駐車場」として地下接続し一体的に管理されている。ペデストリアンデッキで駅まで雨に濡れずに移動することができることも利点となっている。

その一方で、地上部および地下における接続箇所が多いことにより、駐車場内で日常的に迷いが生じることが大きな課題となっていた。

■利用者からの寄せられた声の例

- ・どこに車を停めたか分からなくなった
- ・今どこにいるか分からない
- ・停めた場所にたどり着けない
- ・とにかく分かりにくい

このような声が多く寄せられ、一日あたり10件以上の駐車場内の迷子が発生することが頻繁にあり、駐車場スタッフが日常的に利用者の車探しや目的地への案内のためのサポート対応を行っていた。

(2) 駐車場の迷いが増える要因

サイン改修においては、利用者の迷いを解消することが第一目的であったため、迷いが増えている要因を分析し、どのような表示に変えれば駐車場内の車や歩行者の迷子を無くすることができるかを徹底検討した。

主な迷いの原因としては、駐車場の構造上の問題に起因するもの(4エリアで構成、エリアによりフロア数が異なること)、各エリアの混雑状況により車でフロアやエリア間移動を行わざるを得ない構造となっている動線の問題、サインの統一性の問題などがあった。

改修前の課題を整理すると、下記の問題点が明らかになった。

- ①入口ゲートからの動線がエリアにより異なる。
ミッテン B2F入庫ゲート
ル・シーニュ B3F入庫ゲート (B2Fは搬入車、定期車用)
- ②再開発の進行に合わせ、地下接続したため、エリア名称が複雑。(写真1参照)
- ③駐車場が地下接続しており、混雑時は空きがあるエリア(入口から離れたエリア)に誘導されるため、駐車した位置が分からなくなる。(画像1参照)
- ④地下部が4エリアで、地上との関係性が分かりづらい。
「ミッテン・フォーリス」+「ル・シーニュ」+「駅前広場」+「駅前通り」の4エリアで構成。(画像2参照)
- ⑤地下部がエリアによりフロア数が異なる。
駅前エリアはB1F、B2F、B3Fの3層、ル・シーニュ、ミッテン・フォーリスは2層。(画像2参照)
- ⑥入口ゲート前のサインが情報過多になっている。(別フロアの分岐後の情報まで表示)(写真1参照)
- ⑦満空サインの表示が一定でない。(空車表示として、「P」と「空」が混在)(写真5参照)
- ⑧柱番号サインの規則性がなく分かりづらい。(アルファベット、数字が混じる)
- ⑨目的先の表示が仮設サインとなっている。
- ⑩出口の方面別表記が不足している。(写真14参照)

3. 駐車場サイン改修までの検討

(1) サインの改修のステップ

場内のサインデザインは、吊下げ・柱・壁面を利用し、広い駐車場で利用者が迷わないよう、分かりやすい誘導計画で機能性を高めると同時に、駐車後の利用者が各ビル等の目的地に向かいやすいサインデザインとなるよう配慮し、既存サインで残すもの、改修するものの判別を行うこととした。

(2) 主要検討事項

外周サインの改修・エリア表記の統一	<ul style="list-style-type: none">・駐車場入口名称の記載・駐車場エリア表記の統一・仮設サインを本設化する
地下入口ゲート廻りの誘導の見直し	<ul style="list-style-type: none">・入口サインの情報が過多、効果的に誘導できていないため見直し・不要なユニットの間引き・運用上の誘導を考慮した表示への変更
車誘導・分岐部分の誘導見直し	<ul style="list-style-type: none">・分岐箇所における誘導先を限定する(原則フロア内誘導とし、分岐先の選択肢の数を絞る)・LED満空の「P」表示が「空車」と認識されないため、ユニットの交換を実施し、仮設サインによる空車誘導を無くす
駐車場エリアカラー、表示名の見直し	<ul style="list-style-type: none">・フロアカラーを廃止し、文字で分かりやすく表示・エリアカラー、エリア表記(アルファベット)を設定・エリアは3エリアとする、駅前通り、駅前広場を共通カラーで誘導する
歩行者向けサインの見直し	<ul style="list-style-type: none">・駐車場全体に現在地を明記したマップを各所に表示・全体マップには、エレベーター(供用時間)、事前精算機、トイレなどの必要情報を明記・エレベーターホールにデジタルサイネージを設置し、テナント、イベント情報を効果的に表示

(3) ドライバー向け表示、歩行者向け表示の工夫

場内サインは、ドライバー向け、歩行者向けにそれぞれの誘導目的を明確化し、再設計した。改修前のサインは、歩行者向け、ドライバー向けサインのコンセプトやサイズ、設置位置が適切でないものが多かったため、既存サインの不要なものや分かりにくいものは取り除くこととした。

(4) フロア、ゾーン表示に関する改善

横に広い駐車場であるが、従前はフロア別カラーとなっており、ゾーンカラーは設定されていなかったため、分かりやすい誘導のためゾーンカラーとして再設定した。主要変更内容は、下記の通りである。

- ①フロアカラーの設定→ゾーンカラーの設定に変更、フロア表記は、文字で分かりやすくした。
- ②ル・シーニュ駐車場は当初ル・シーニュが自主運営する前提で設計されていたため、ゾーンカラー、表記、サインデザインが独自検討されており、既存の市営駐車場と意匠上の統一感を欠く要因となっていたため、今回の改修時に統一感のあるサインに変更した。
- ③4ゾーンを3ゾーンに分類、駅前通り・駅前広場は、統一のBゾーンの中で、B-1、B-2に分岐させた。

(5) 車両誘導に関する改善

駐車場誘導案内や満空サインは、場内随所に設置されているものの、効果的な配置とは言えない状況であった。例えば、B3F入口には満空が多数設置されているが、別フロアで分岐先ゾーンの情報までが表示されていることで、却って分かりづらい状況となっていた。

車両誘導に関する課題を整理すると、下記の問題点が明らかになった。

- ①駐車場エリア表示名の統一が必要。
- ②改修前は、フロア別カラーが採用されていた。(B1 赤、B2 緑、B3 黄)
また、フロア表記がB1、B2、B3のみでFがついていないため、ゾーン表記に見えた。
一般的にはゾーンをカラー表示、フロアは文字で記載した方が分かりやすい。
- ③車から見た場合の適切な文字サイズへの変更が必要。
例)駅前通り、駅前広場の文字が小さ過ぎ、視認性の問題が生じている。
- ④効果的なカラー、デザインの検討が必要。
- ⑤再開発ビル名・キーテナントの効果的な表示の検討が必要。
- ⑥満空灯(「P」・「空」の2種類あり)を利用者は認識しているか？
- ⑦異なるゾーンへの進入時の案内強化の検討が必要。



写真1：【ル・シーニュ側入口経由：B3F 入庫ゲート前サイン】満空情報が多過ぎる。エリア名称の記載が視認性に欠ける。



写真3：フロアマップの情報が不足しており、後付けの手作りサインが多い。丸印の「B1」、「B2」、「B3」が、フロア名と認識されない。



写真2：地下接続先のエリア+別フロアの記載が多すぎる。エリア名称の記載が小さ過ぎて視認性に欠ける。



4. サイン改修

(1) 施工前後

入口サインは、場内のゾーンカラーと名称の記載内容に合わせ、入口で瞬時に判断がつくように、データの掲示内容を整理した。また、地下のゲート前の満空サインの情報は、エリアによりPマークと空マークが混じったり、情報が多過ぎる箇所があったため、情報を整理した。

施工前



施工後



写真4：どの施設の入口かを表示し、さらに駐車ゾーンを色で表示して視認性を高めた。

改修後はドライバーが瞬時にどの方向に行くべきかを判断しやすい情報量となるよう、満空ユニット数の絞り込みを行った。尚、満空ユニットは設置エリアにより設定が異なり、「空車」=「P」表示、「空車」=「空」表示が混在していたため、「P」マークが「空車」を意味していると認識されづらかったが、全てを「空」表示タイプに統一した。

また、ドライバー向けの表示として、ゾーンカラーを活用した。地下接続でエリアが変わる部分には、ゲート型に塗装を行うなどの工夫をすることで、利用者がどこにいるのか、車をどこに停めたかを分かりやすく認識できるように改善した。

施工前



写真5：空車表示を「P」から「空」に改修

施工後



施工前



写真6：別フロアの満空表示をなくし該当フロアの情報のみに変更

施工後



施工前

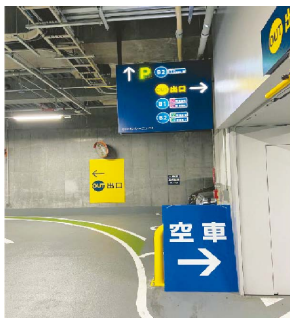


写真7：コンクリートの柱・梁をフロアカラーに塗装し、ここから先が別のゾーンになることを強調した。

施工後



施工前



施工後



写真8：空車表示を「P」から「空」に改修、ゾーン別カラー表示でゾーニングを明確化、現在地表示を明確化

施工前



施工後



写真9：別フロアの情報削除、ゾーン別カラー表示でゾーニングを明確化、現在地表示を明確化

施工前



施工後



写真10：看板位置と分岐情報の位置が合わず誤解を招くため削除、現在地とゾーンカラーを明確化

施工前



施工後



写真11：空車表示を「P」から「空」に改修、ゾーン別カラー表示でゾーニングを明確化、現在地表示を明確化

施工前



施工後



写真12：別フロアの情報削除、ゾーン別カラー表示でゾーニングを明確化、別フロアの情報削除、現在地表示を明確化

施工前



施工後



写真13：別フロアの情報削除、ゾーン別カラー表示でゾーニングを明確化、出口表示の明確化

施工前



施工後



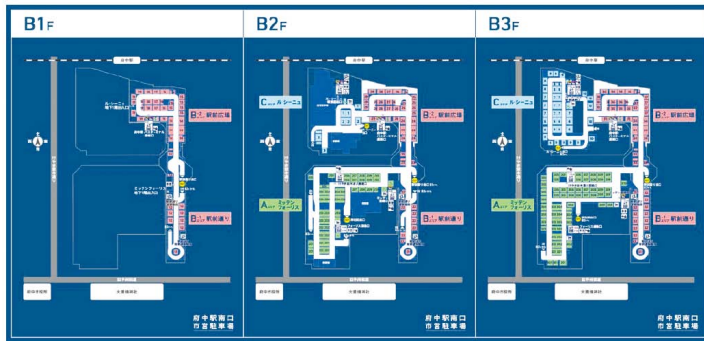
写真14：荷捌きの高さ制限注意を、LED光が流れる赤色バーを設置、他フロア情報を整理、バナーの出口案内をパネル化

(2) 歩行者誘導に関する改善

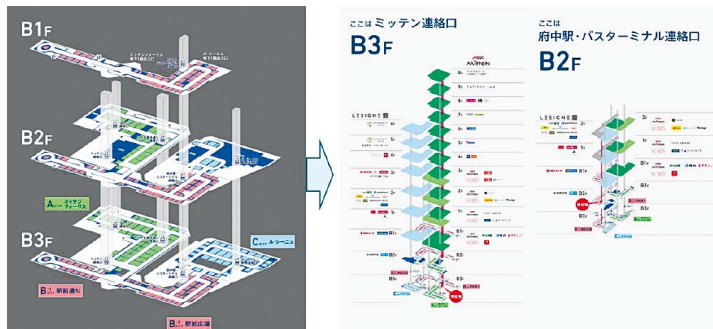
歩行者用の駐車場内マップは、エリアごとの表示となっており、エリア間の移動やフロア間の移動の経路が記されていない。また、現在地、フロア名称、出口階段、方角等の情報が無く、地上部の情報(道路、周辺ビル等)が不足していたため、歩行者誘導に関する課題を整理し、下記の対策を立てた。

- ①再開発ビル・駐車場の位置関係が分かる、統一したサインが必要。
- ②フロアマップの更新、再開発ビル・駐車場との位置関係・現在位置の表示を行う。
- ③駐車場で迷っている場合、目的地から大幅に移動してしまっているケースが多いため、全体マップの中でどのエリアにいるか明確にしたフロアマップを随所に掲示する。
- ④エリア名、現在位置、EVホール、事前精算機、トイレ等を表示する。
- ⑤市役所利用者の駐車場利用時対策として、外部からの歩行者出入口案内の強化が必要。

駐車場内の迷いでは、自分の車を停めた位置が分からなくなるケースが多かったが、停めたフロアの階層を勘違いしている例が散見された。駐車場全体の構成を俯瞰できる駐車場内マップが用意されておらず、平面移動と上下移動の際の動線が分かりづかったことに起因するものと判断し、立体マップを作成し、随所に掲示することで、場内の構成を分かりやすく説明できるよう工夫した。



画像1：各フロアの平面マップ（車室番号を全て網羅）



画像2：各フロアの立体マップ マップ設置位置の状況に合わせて、地図を展開

(3) エレベーターホールサインに関する改善

エレベーターホールのサインは、駐車場の各フロアの立体マップと上部ビルとの関係性を示すマップに加え、テナント名(ロゴ)を掲載する計画とし、目的地を分かりやすく表記するよう配慮した。また、デジタルサイネージを各エレベーターホールに設置し、駐車場や店舗情報のみならず、府中のまちなかイベントを積極的に案内できるようにした。

施工前



施工後



写真15：エレベーターホールに商業施設の連絡口を示す壁面サインを設置し、テナント名ロゴを表示、デジタルサイネージを設置

施工前



施工後



写真16：フロアマップをゾーンのみから全体マップに変更

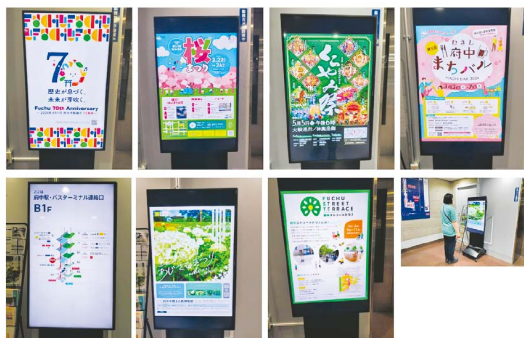


写真17：分かりやすいと好評のデジタルサイネージ、イベントの多い府中市ではサイネージ更新も駐車場スタッフが頻繁に実施

5. その他利便性の向上

(1) 早朝、夜間出入口の案内

駐車場での「迷い」はストレスおよび危険行動に繋がるため、迷いを無くすことは非常に重要である。府中駅周辺には、大國魂神社、東京競馬場、味の素スタジアムなどの施設があり、季節ごとの祭り、スポーツ、イベント等の広域集客により、初めての駐車場利用者も年間を通じて多い。

府中市新庁舎建設工事の期間中の市役所利用者の府中駅南口市営駐車場への受入れの対応としても、早朝、夜間のテナント閉店時の歩行者出入口の案内を含め、駐車場利用者の迷いを軽減し、分かりやすい案内の必要性が求められていたため、外部からの歩行者向けサインを新たに追加した。



施行イメージ

写真18：早朝、夜間の歩行者入口案内の強化

6. 府中駅南口市営駐車場の駐車場改修について

(株式会社府中駐車場管理公社 常務取締役 間宮和彦)

府中駅南口市営駐車場がオープンして30年弱、お客様が迷わないように、事故がないようにと、いろいろな場面を想定して都度、注意事項などの自作看板を次から次に場内に掲示してきました。その結果、看板が増えすぎて情報過多となり、的確にお客様に情報が伝わらず迷子が多発している状況でした。迷子の案内は駐車場係員の重要な役目ですが、件数が増え過ぎると現場において大きな業務負荷となり、運営にも支障が生じます。

今回、サイン計画を委託したモビリス・コンサルティング株式会社様から、駐車場の掲示等をまっさらな状況から見直すというご提案をいただきました。情報量が減って大丈夫かという心配もありましたが、改修した結果はその場所に本当に必要な情報のみが掲示され、より分かりやすく伝えられるようになりました。美観も大きく向上し、エリアによっては新築と見間違えるほどでした。

懸案だった迷子対策も、フロア別カラーからエリア別カラーに色分けを変更したことにより、自分がどの建物にいるかを分かりやすくしたことや、場内の全フロアが表示されたマップを新設することにより、複雑な駐車場の構造が一目で分かるようになったことから、改修後は場内の迷子がほぼなくなりました。またデジタルサイネージの3D案内図とテナントロゴの表示により、お客様も駐車場と商業施設の位置関係が立体的に把握できるようになり、目的のお店に迷わずたどり着けるようになったのではないのでしょうか。

サイン工事の実施により利用者にとっての利便性が大きく向上し、施設の付加価値が高まる一方で、運営効率の改善も期待できます。分かりやすい場内誘導サインの設置により、駐車スペースを探して場内を徐行しながら回遊する車両が減ることは、回転率のアップにもつながります。駐車場オーナーにとってもコストメリットの高い設備投資になったと実感しています。

日頃から自分たちなりに一生懸命に駐車場の運営改善に努めているつもりでしたが、時にはコンサルティング会社様などから異なる視点でのアドバイスをいただくことの重要性を感じた今回の改修プロジェクトでした。

今年は府中の市制施行70周年記念の年であり、綺麗に分かりやすくなった駐車場に大型サインを設置するなどし、市民の方が快適に駐車場を利用できるような管理運営に取り組んでおります。



写真19：駐車場内に設置した府中市制施行70周年記念パネル